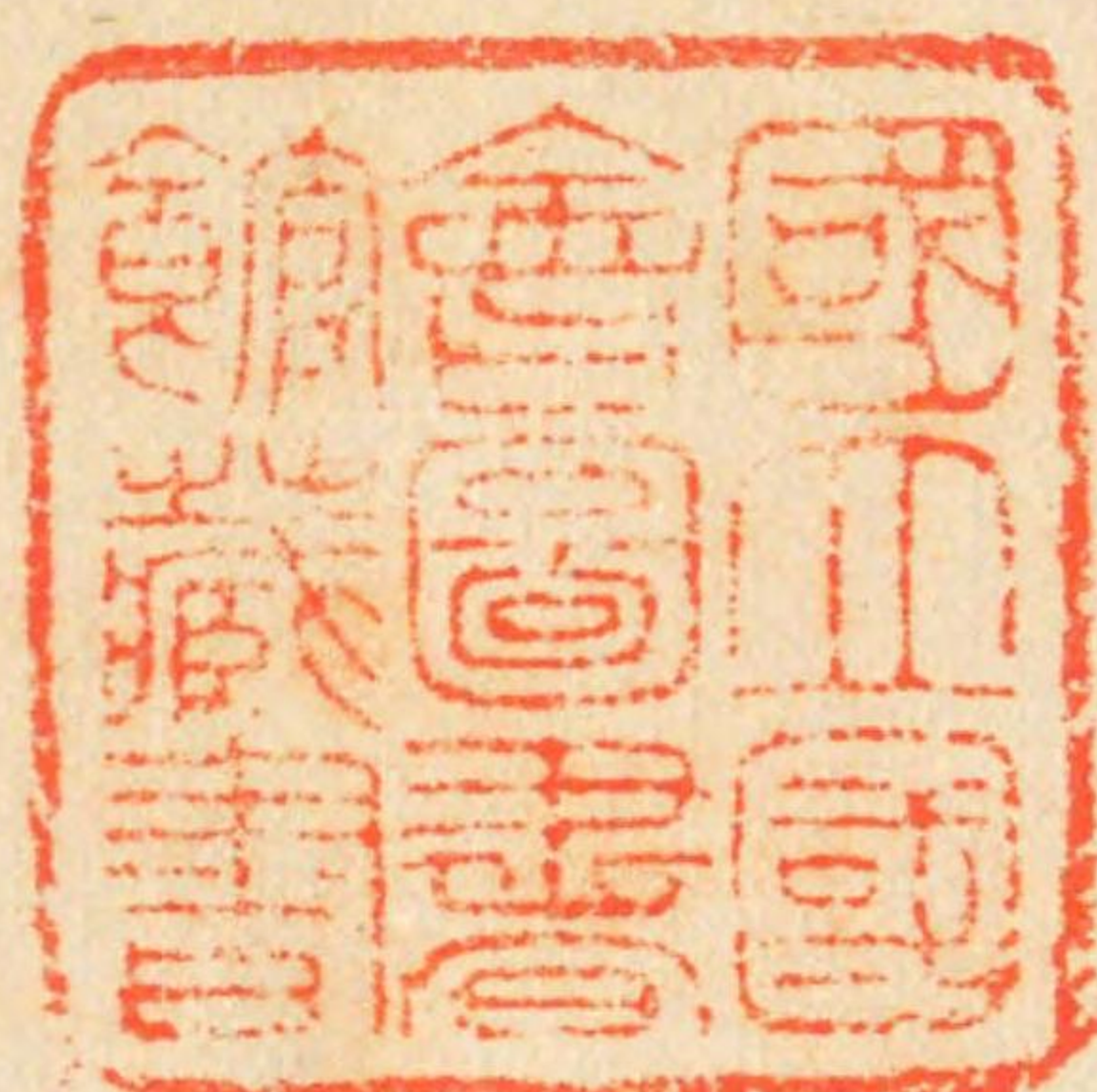


琴歌譜

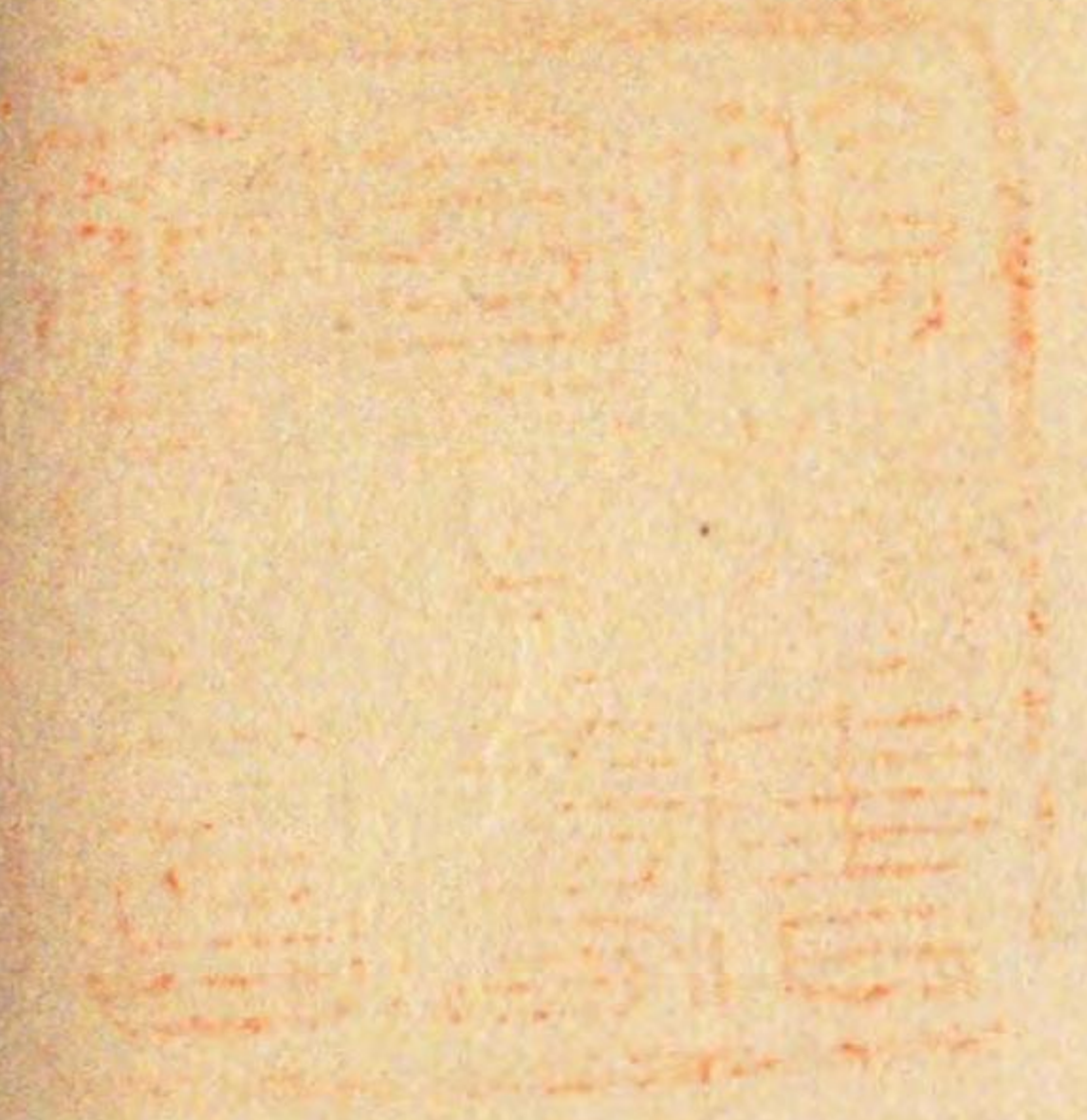
768. 12
Ki 284
II



225579

768.12Ki234II





琴歌譜



諸音樂之具種類雖多求其雅旨莫過琴歌琴歌
相須如伉儷是以絃歌相違則一節之中障成胡
越六歌相和則四坐之上同於水乳禮古樂者中和之
紀也斯之謂欵故今雙陳琴歌之調敢述曲絃之圖以
朱為絃以墨為歌乃稟先而師是非新意又依點句
之形表歌聲其句者振頰強發之聲此有五種點者
忽短衝心之聲此有二種雙者共彈織難之節丁者
徐隨微息之聲也又以甲乙六干配於六絃依次當絃
以別絃名

外一絃為甲 二絃為乙 三絃為丙
四絃為丁 五絃為戊 六絃為己

其指絃相當依圖
可見也琴歌之趣大矣如品其要曲頁師範耳

可見也琴歌之趣大區如扇但其委曲須師範耳

茲都歌

美望吕尔都久也多麻可吉都安万須多尔可毛
与良年可美乃美也碑等

美望吕止於於迹丁都短久已夜阿

阿乙阿多阿麻可阿阿央吉伊

乙都吉阿和安安安麻須

字字字字伊与於於應丁都

吉阿阿麻阿須伊余於都吉阿

阿阿麻須伊余於都吉阿

麻乙須伊余於於應丁都吉伊

阿阿麻乙須伊余於於應丁都吉伊

阿阿麻乙須伊余於於應丁都吉伊

右古事記云大長谷若達命坐長谷朝倉宮治天下之時
遊行美和河之時邊有洗衣童女其容姿甚麗天皇
問其童女汝者誰子答白已名謂引田赤猪子天皇詔
汝不嫁夫今將白故其女仰待天皇之命既經八十歲天
皇已忘先事徒過盛年而賜歌云時赤猪子之淚泣悲
濕其所服之丹摺袖答其大御歌而詠此歌者此緣記
与歌異也

一說云弥麻貴入日子天皇之子卷向玉城宮御宇伊久米
入日子伴佐知天皇与妹豐次入日女命登於大神美望呂

一平冬申可下...

山拜祭神前作歌者此縁記似正説

歌返

乃之乃
之可久尔乃安波知乃美波良乃之乃佐祢己自尔伊己之毛
知支天女佐川乃乃美為乃字八尔字惠川也安波知乃美波良

難波高津宮御宇大鷲鷯天皇納八田皇女為妃于時皇

后聞大恨故天皇久不幸八田皇女所仍以慈恩若姫之

於平葦与八田山之間作是歌者今技不接於日本古事

記

茲可久尔乃安波遲央乃應美引波良
乃志し乃詩央也佐祢己自伊伊上尔伊之

央也佐祢己自伊伊上尔伊之
央也央伴己自毛於下知支互上之央也安佐良己乃

央也央伴己自毛於下知支互上之央也安佐良己乃

央也央伴己自毛於下知支互上之央也安佐良己乃

央也央伴己自毛於下知支互上之央也安佐良己乃

央也央伴已自毛於下知文五上之央也安佐豆し万

乃之央也安佐豆し万乃於上梅上安佐豆

万安乃上於美為乃應字倍尔字惠亞し

亞し川し字川了字了夜安波遲伊伊乃上於下美

波良乃上於下之乃字息豆字上之伊了

乃安波遲伊伊乃於美波良乃之乃了字

惠了都字字茲伊之乃努之了能於了應了

字字會亞亞都字志之了能之伊乃努於

了字會亞都字志之了乃茲乃能於了

一說玄皇后息長帶日女越那羅山望見葛城作歌者

一古事記玄譽田天皇遊獲淡路嶋時之人歌者

片降由布之天乃可美可佐伎奈留伊奈乃保乃毛
呂保尔之足与許礼知布毛奈之
于廿

呂得尔之互与許礼知布毛奈之

由布之互衣_即之_大衣_一乃_於於可美我安_即了_了佐

安_レ伎_レ奈阿流_字即_了了伊_レ奈_レ乃_於保

於_即之_大於_一女也_和伊奈乃保_於即_之大_於レ_乃於

レ毛呂保_於即_了了尔伊_レ之互_上衣_下余_於即_了

了己_レ礼_レ知_上伊_下布_字即_之大_字一_毛奈_レ之_手

高橋扶理
美知乃倍乃波利止久奴伎止之奈女久毛伊不
奈留可毛占波利止久奴伎止

美知_引乃_レ部_引衣_弓乃_レ波利_レ止_手於_レ止_手久奴_引

伎_{下重}伊_止於_引央_了了志_伊奈_手辛_レ米_上衣_下久_手字_之

央_字一_毛奈阿_上レ_伊余央_於之_央於_一之_奈阿央

米久米也

志奈米_レ久_字弓_毛於_伊布奈阿_心流可_引出_引上_母余_手

志奈米手し久宇手万毛手於手伴布奈阿手心流可手出則上手母余手

於引央手了手波利上伴央手止上於手久宇手節手之手央手宇手一手奴吉手

伊手止手央手於手一手波利手止手久奴交手止手手廿八

短埴安扶理手乎止米止毛乎止女佐比須止可良多万乎多毛

乎止米止手し手毛手乎止手年手米手引央衣手引

解和佐一手年手比手伴須止手於手於手可安手良安手并

安手多安年手万安一手惠夜手

可良太万手乎手太毛手於手止手央於手尔手年手

万阿手引阿佐手引且衣手節手乎於手止手於手於手米手

衣手上佐安手一手比須毛手

伴勢神歌手佐者可流於保比留女乃佐交川可比与手余手佐交川可

比佐交川可比伊久也奈交伴久也奈交佐交川可比

佐者安一手可手須更間手流手宇之手夜於手不保手上手比手上手

中手

流短し米手一乃中於下於上佐短伎央手一川宇手節手し宇下可

比手築節伊了了 佐伎伊央川可比与央与上し余央余於於し節了

与上於与上了了余央余了了佐伎央し都宇し節宇一

可比伊伊し了佐宜央川下可下一比佐伎川可し比佐伎

央川宇宇一可比伊し了伊久宇下宇下也下奈伎伊

久也引小奈女し伎伊細上伊久宇し也下安し安し奈伎伊

し伊し了佐伎伊央都可下比

天人扶理阿米比止乃川久利之多乃伊之多波伊奈惠伊之多波於乃乎

伊奈惠川久礼波可和良止由良止奈留伊之多波伊奈惠伊之多波

阿米比短止引乃川重久利し之多安し乃伊之多安し波

安央し伊奈惠衣節伊内引短志多安波伊奈惠手手

安央^手伊奈惠衣^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

伊之多波^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

伊之多波^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

央良^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

多安^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

继根扶理^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

都伎^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

伎^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

奈^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

波^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

波^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

万志^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

连豆振^手伊奈惠^手 伊^手 志^手多安波伊奈惠^手

知於世也乎止利
手十六

手十六

尔波尔多短 川布不伎手 一乃乎止上 於利之重 川上手 宇

宇上 宇下 一伊上 川上 宇下 伊川良安并安 伊上 古世和

可世阿可止小引 之良尔伊手 一和可祢手 牟上 波之川宇下 宇

宇下 伊川宇伊川良安并安 宇知於已世乎小引 止利手

阿夫斯且振 阿布之且比利比多久佐波奴毛乃乎宇万良尔乎世乎者
可艾美宇万良尔祢也

阿布之且衣与比手 伊下 利比下 多久佐波央一奴宇毛手

乃於乎下 宇下 万下 良上 尔上 伊下 乎於下 世下 乎下 者下

我中上 伎美伊手 伊上 伊下 宇短 万良祢也手 二度歌耳

台扶理 夜万久古於保須可波良乎宇之波布武為
者不羊止毛与多美奈布美曾祢

夜万久知伊一於手 保須宇手 宇可波良安一安一宇之

皮安儿布米也手

御酒之侍天皇作此歌一古大長谷天皇未即位間初欲

致見坂合部黑日子与甥目菊王此侍二王子道行到於

葛木津守村大臣家送天皇遣使乞臣固争不出二王

子与大臣並可致此侍大臣女子韓日女娘注云即天皇

妃也見其父被致而即棄傷作歌者

美奈曾蕪久丁於美能於引於於引於於引乎止米

保多利保止於利丁可太久字引字引止於礼引亞引

保太利止引於於於於引保太利止引良湏古保太利

止理丁可太久字引字引字引字引止於礼引志太可太

向久字丁夜我何多丁向引久字丁止於礼引亞引

亞引保太利止引於於於引保太理丁止引於良

湏古手 手廿六

向良多之文止之乃皮之如不可久

手廿六

向良多之文止之乃皮之如不可久

斤降

向良多之文止之乃波之如尔可久之已曾去
止世乎可祢豆多乃之文乎倍女

長埴安扶理

可波可美乃可波之利乃文乃宇止介止毛
都伎之祢毛去波宇可良止曾毛布

可波加

向阿美

伊能

於於於

可波

向阿波

引阿

向阿阿

利伊

伊伊伊

能於文

伊伊伊

能於於

宇

止

於於

亞

止於

惠夜

宇止

引亞

止

於毛

於於

都義

伊伊之

伊移移

祢

亞

母於

知伊伊

移移

波向向

宇我

向向良

向止

引於於

曾於毛布

手十八

自餘小歌同十一月節

七日阿遊施扶理

多可波之乃美可為乃須美豆向良乃久乎須
久尔於伎豆未久乎須久尔於伎天奈尔可奈

可許尔伊夫

留須美豆

大帶日子天皇之后尾張國孕任忽焉臨產以使者奏

可許ル尔伊夫天乎
久尔於伎豆未久乎頃久尔於伎天奈尔可奈
留頃美豆

留頃美豆

大帶日子天皇レ后尾張國孕任忽焉臨產以使者奏
天皇即時遣使者台上到春日穴抚邑所生王子
天皇大歡喜即歌者
稚帶白子太子

多可波試手能丁夜美可レ為火移丁么能美豆手宇宇丁

阿良萬久手乎丁夜頃具尔手夷引伊伊伊レ丁於伎豆

亞亞レ丁移豆万久乎於レ於レ丁夜頃具尔伊移移レ

於伎天亞レ丁奈尔可難何我夜去レ尔移レ移レ丁

伊豆レ乎留宇宇宇レ丁夜頃美豆宇宇宇丁移豆手

豆乎留頃美豆万之衣万何何衣衣師央夜手卅

頃乃可羨布留乃也未乃久未可都万吕可毛之可可都米夜豆
万吕可毛之无都万之美和礼許尔伊夫乎礼頃美都

伊頃宇乃可下安美也布レ流宇乎上乃夜万乎久万手

可川上米也上 也牟川万上 阿也上 吕可毛之伊 子可引可

川米也下也 川万向也 吕可毛之伊 子牟川万之也 美

也礼也 已 迴上 於也 曾即 已尔伊伊 伊互也 互 輕乎

於 禮也 湏美豆 字 伊互上 互乎 礼湏美川

阿佐可利尔奈世可止 保理之波之乃 依仗久比乎 与吕之美可比乃 是乃

都仗乎 与吕之美和礼 許 蕪許 尔伊互夫乎 礼湏美都

阿佐也 阿上 丁可利也 伊上 丁尔也 奈也 世衣可安 幸短

於 於保 利 伊伊伊波之 伊丁乃 佐也 阿上 丁仗

夜久也 比乎 於下 於也 与吕之美 伊可 比乃 江乃

於 乙夜川 仗乎 於也 与吕之美 伊可 於 礼也 曾於

波也 已 築上 尔 築伊 伊一 石伊 天互乎 礼衣也 上夜

湏美川 宇 伊互 互乎 下 礼湏美川 万之 依上

也 万上 依也 兹也 下也 手廿四

須美上川し宇平伊立上し且下乎下礼須美川万之依上

也公万上し依し茲上央し下也

其日節酒坐歌二

許乃美伎波和可美、奈良須久之乃可美止許
与尔伊万須伊波多須し久奈美可美乃止余保

交毛止保之可元保交、久留保之万
以利已之美伎曾尚佐須乎西佐佐

許短能於美短吉伊伊伊波何和可何何美丁伊吉伊奈後下

良受久志能於可何何何美伊等上許余於於公迹伊伊

不須丁伴波多太丁何須宇須久奈丁何美伊可味能丁

公之伊伊夜等余於保於於吉伊保於於吉丁公茂於止於

保之丁公之伊伊夜丁可元宇保於乙於吉丁公久宇流保之

丁公志伊伊夜打万都理伊許於丁於之伊美吉伊叙於

乙丁於於阿佐受遠丁西佐何何佐何阿佐受遠丁公西亞夜

許乃美交乎可美介元比止波曾乃川し美宇須尔太天宇太比川可
美介礼可毛之未比川可美介礼可毛之已乃美交安也尔宇太

阿志^{了上} 比^上 能^上 夜^了 万^了 多^了 何^了 乎^了 都^了 久^了 利^了 伊^了

伊^了 移^了 夷^了 移^了 伊^了 移^了 移^了 夜^了 万^了 多^了 何^了 良^了 力^了

阿^了 志^了 夷^了 太^了 脩^了 乎^了 和^了 試^了 世^了 丁^了 志^了 太^了 止^了 比^了 夷^了 尔^了 伊^了 和^了 力^了

阿^了 我^了 止^了 於^了 力^了 布^了 都^了 万^了 丁^了 志^了 多^了 奈^了 伎^了 上^了 伊^了 尔^了 移^了 和^了 阿^了 我^了 引^了

奈^了 引^了 阿^了 久^了 都^了 万^了 丁^了 試^了 夜^了 丁^了 已^了 受^了 宇^了 宇^了 已^了 於^了 曾^了 引^了 已^了 受^了

已^了 於^了 引^了 於^了 於^了 於^了 曾^了 伊^了 母^了 尔^了 移^了 伊^了 移^了 伊^了 引^了

夜^了 湏^了 宇^了 久^了 波^了 么^了 太^了 布^了 宇^了 礼^了 亞^了 引^了 夜^了 湏^了 宇^了 久^了 波^了

太^了 布^了 礼^了 于^了 世^了

酒^了 坐^了 歌^了 二^了 縁^了 記^了

日^了 本^了 記^了 云^了 般^了 名^了 余^了 稚^了 櫻^了 宮^了 御^了 宇^了 息^了 長^了 足^了 日^了 咩^了 天^了 皇^了 之^了

世^了 命^了 武^了 内^了 宿^了 祢^了 從^了 品^了 隨^了 皇^了 子^了 令^了 拜^了 角^了 鹿^了 筭^了 飯^了 大^了 神^了 至^了

自^了 角^了 鹿^了 足^了 日^了 皇^了 太^了 后^了 宴^了 太^了 子^了 於^了 太^了 殿^了 皇^了 后^了 舉^了 觴^了 以^了 壽^了

一
一
一

一
一
一

自角鹿足日皇太后宴太子於大野皇后舉醴以壽
于太子曰以歌之

茲良耳歌緣

日本記日遠明日香宮 御宇雄朝婦稚子宿祢天

皇代立木梨輕皇子為太子也新開母妹輕大娘皇
女乃悵懷少息仍歌者今案古事記云日本記之歌
与此歌尤合古記但至許曾已曾之句古記不重耳

古歌抄云雄朝豆万稚子宿祢
天皇与衣通是王寐時作歌者

琴歌譜一卷

女

家

書

伴書希有也仍自大歌師前丹波掾多女樹手傳

寫 天元四年十月廿一日

馮 天元四年十月廿一日

近衛公爵所藏琴歌譜解説

公爵近衛文麿氏所藏天元四年書寫本琴歌譜一卷は、和琴の歌曲の譜本にして、從來全く知られざりし珍貴なる典籍なり。この書は卷子本にして表紙なく軸なし。紙の高さ九寸四分、天地及行毎に黒界を施せる楮紙九葉に墨書せるものにして、別に、天地にのみ黒界を施せる白紙の切を巻初に附せり。この一紙は破損甚しく形不整なるが、高さ九寸四分、幅廣きところにて三寸九分あり。紙質は本文の部と同様に見ゆ。本文第一紙は幅一尺六寸四分にして二十五行あり。第二紙は一尺七寸二分、第三紙より第八紙までは毎紙一尺七寸二分五厘(第七紙のみは一尺七寸三分五厘)にして各二十六行あり。第九紙は八寸にして十二行餘あり。欄界はいづれも天地の界線の間凡七寸八分五厘あり。外題なく、第一紙第二行に琴歌譜と題せり(第一行は空白なり)。本文は第九紙第八行にて終り、後一行を隔て、尾題あり。その下に左よせて小字にて「安家書」とあり。次行にまた小字もて「件書希有也仍自大歌師前丹波椽多安樹手傳寫 天元四年十月廿一日」と二行に書せり。これによれば、この書は圓融天皇天元四年(紀元一六四一年)大歌師多安樹の許にありし書を傳寫したるものにして、その紙質書體等より觀るも、天元當時の書寫本として疑ふべき所なし。筆者につきては、「安家書」の文字の間隔あまりに多きを以て、この本が安家の自筆なるか、又は安家書寫本の轉寫本なるかにつきて疑を挿むべき餘地あれど、猶、安家の自筆とすべきか。さはれ、安家の如何なる人なるかは未だ明ならず。大歌師多安樹の事蹟も亦然り。

この書は和琴の奏法と歌曲の聲調とを併せ示せるものにして、每章歌曲の名を擧げ、下にその歌詞を萬葉假名にて註し、次に歌聲の長短緩急を萬葉假名及符號を以て示し、その傍に、之に伴ふ和琴の彈法を符號を以て朱書し、猶處々に、その歌の作られたる由來を説けり。

この書編著の年代は明ならざれども、萬葉假名の字體及用法より觀れば、平安朝初期のものなるべきか。而して、この書の序に「故今雙陳琴歌之調敢述曲絃之圖以朱爲絃以墨爲歌乃稟先師是非新意」とあるによれば、この書以前にもこの種の書ありたるもの如し。

この書に收むる所の歌はすべて二十二首なるが、歌詞全く同じくして聲調のみ異なるもの一首を除けば二十一首となる。中、五首は記紀所傳のものと同しく、一首は神樂歌に、一首は古今集に、一首は年中行事秘抄所引本朝月令所載のものに似たり。他の十三首は他に所見なきものなるが、これ等の大部分はその用語格調並に思想内容等記紀所載のものと大差なく、之と相並ぶべき上代の古謠を傳へたるものなるべく、最珍重すべきなり。記紀所載のものと同じき歌も、間々語句に小異あるものあり、更にその歌の由來にいたつては、或は記紀の所傳と全く異なる異説を擧げ、或は古事記又は日本紀の本文を引用して之と對照せるところあり。この引用文は、平安朝に於ける兩書の面目をうかゞふべきものにして、校勘の資料となすを得べく、殊に古事記の如き、平安朝以前の傳本一もなきものに於ては、その價值一層大なりといふべし。又この書の最後に引用せる古歌抄の如きも今は亡佚せしもの如し。

本書は上述の如く、古代の文獻として貴重なるに止まらず、本邦歌謡史の上には絶大の價值を有するものなり。その茲都歌、伊勢神歌、大直備歌、宇吉歌、酒坐歌、茲良宜歌といへるもの、又高橋扶理、短埴安扶理、天人扶理、繼根扶理、庭立振、阿夫斯豆振、山口扶理、長埴安扶理、阿遊陀扶理といへるもの、又片降といへるもの、歌返といへるもの、いづれも古代の歌曲の名目たること明かにして、そが中にも埴安扶理に長短の二曲あるが如き、又片降の曲の一が、所謂神樂歌の詞と同じく、他の一が大直備歌と詞を同じくして曲を異にし、しかもその大直備歌が、古今集所載の大なほび歌の源たるが如き、研究上最も重要な關鍵たるべきものなり。更に之を古事記にいへる歌曲の名目に照すに、その志都歌といひ、志良宜歌といひ、宇岐歌といへるは、この茲都歌、茲良宜歌、宇吉歌と同じものをさせること著しく、その酒樂歌といへるはここに酒坐歌といへるものに同じ。その他夷振宮人振などいへるは同じ名目はなけれど、ここに高橋扶理、天人扶理なきいへると同じ基礎に立ちての命名なることと思はるれば、本書の歌曲と古事記の歌曲との間には密接の關係あるべく思はるるなり。本書に載する歌曲は上述の如く古代の歌謡の研究に大なる光を投ず

るものなるが、それと共に後代の歌謡との關繋も又研究せらるべきものなるべし。特にその庭立振の如きは、著しく後世の風を孕めるものにして、歌謡の上には頗る興味深きものなりとす。

本書は又國語の研究資料としてその僅少なる語彙のうちにも幾多の材料を含めり。一例をいはむに「あたらし」といふ語は「新」といふ字を既に「あらた」とよむ如く、古代には「あらたし」といひしが、後世、音のおきかへによりて「あたらし」となれりと考へらるるものなるに、紀記萬葉を通じて、かく假名にかけるは唯一のみなれば學者往々之を疑へるに、本書の片降には確にかく書きて動くまじき證を與へたる如きこれなり。しかもなほ本書には未だ解釋を下し得ざる語少からず。後來國語學者の研究に期待する所少しとせざるなり。

この書、全文に亘りて朱書あり。歌の譜の右傍なるは、序に云へる如く、和琴の彈法を示せるものなるべけれど、また書寫の誤を訂正して、衍字を塗抹し、脱字脱行を補ひ、文字の位置を訂したるところ甚多し。「片降」の行(複製本第七丁裏)の最上端に朱の「歎」の字見ゆるは、その上に猶他の字ありたるを、紙端と共に裁ち去りたるなるべし。

本書は從來その名だに知られざりしものなるが、大正十三年文學博士佐々木信綱氏はじめて之を見て、同十四年一月の雜誌藝文に發表せられてより、世に知らるるにいたりしものなり。その後武田祐吉氏、本書の歌を續萬葉集中に収録して略解を加へたりし事あり。されどその全部の印行せらるるは今回を以て嚆矢とす。

この複製本は、すべて原本の大きさに撮影せり。但、最初の空白の紙葉のみは之を省けり。原本の朱書は複製本には色淡くあらはれたれば、墨書と區別し得べし。

昭和二年十一月一日

山 田 孝 雄
橋 本 進 吉

昭和二年十一月廿五日印刷
昭和二年十一月廿八日發行
(非賣品)

發行兼印刷者 古典保存會

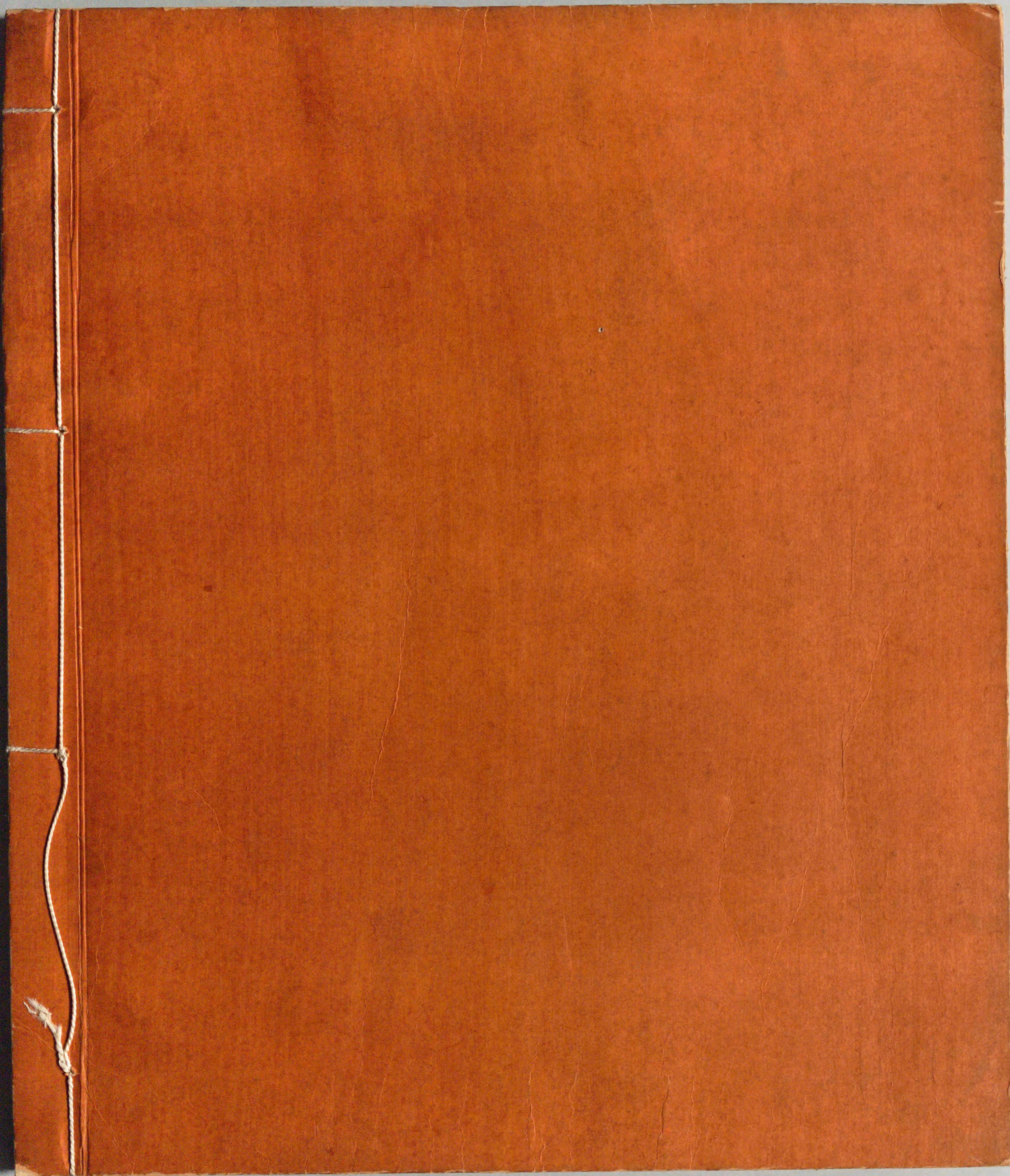
右代表者 東京市下谷區上野公園東區
七條

印刷所 金屬版印刷所

東京市神田區花房町四番地

古典保存會事務所

電話 下谷六七八八番
振替口座東京四四九四八番



768.12-Ki234



1200600682783

768.12

Ki234

W II

琴
歌
譜

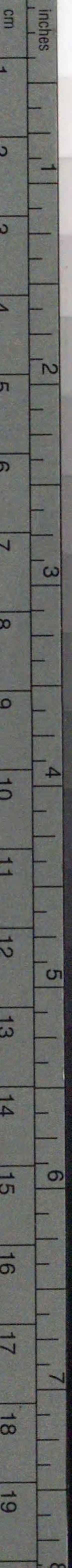


Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

